

# 勝林寺寺報

## 今月のいち

(今年のはつびきならぬ用事で同窓会を欠席した私に、故郷にいる古い友からこんな便りが参りました。)

小学校の同窓会。還暦越えてからは一年はざみになった。そのことだけでも老年の侘しさを思ったのに、七〇歳越えた今年など、前回からこちら二年の間に、同級生五人も死んでいた。

おまえからは欠席届けをもらっていたからいいものの、返事も届けもないまま黙って死んで行った奴らは、いったいどんな死に方したんだろうと、なんとも歯痒く思われてならない。  
それにしてもお前どうしているか。  
次の同窓会に会えるだろうか。

つい一月まえ、商用で京都まで出かけて、ホテルで偶然読んだ『ブツダのおしえ』という本の第一ページにあった言葉が、わたしには衝撃的であった。  
欠席のお前に、この言葉をプレゼントしよう。

そして二年後の同窓会でお目にかかれたら、そのときこの言葉のこころを互いに語り合おうではないか。  
元気で暮らせよ。

そのことばは法句経82というところにあるのだそうだ。

人の命を受くるは  
難く

死すべきものは  
いま いのちある  
は 有り難たし

九月九日	口栗尾	葬儀
石坪	久男様	
九月十三日	口小谷	
宮嶋ともる様		
九月十四日	出合	
生田	あい様	
九月二十日	下谷 吉祥寺前住	
伊藤	魏典様	



大谷本廟に納骨参拝

### 念佛奉仕団に参加して



永井ひろ子  
清掃奉仕の勝林寺門徒

今年バス三台に分乗しての念佛奉仕団でありました。勝林寺からは十二名の参加でした。先ずは開会式。出石組奉仕団が始まって今年で三十九回目とか。ひとしお感慨深いものがありました。

続いて書院拝観。そのすばらしいこと。ただただ感嘆するばかりでした。

ご門主さまとの記念写真におさまり、その後広い阿堂(阿弥陀堂とご影堂)の清掃作業に汗をながしました。  
夜は本願寺会館でのご法話聴聞。(八鹿の永照寺さまのご院家までした)

物が豊かになれば心が貧しくなる。なにごも自分の都合で先行きせず、一度止まって考えるトキを持ちたいと、わたしの今の生き方への厳しいお諭しと聴聞させていただきました。

二日目のお晨朝(朝のお勤め)。お御堂を埋めた大勢の参詣のなかへのご門主さまのご出仕。そのときは、厳かと言いまししょうか、まこと身の引き締まる思いでございました。

閉会式には、勝林寺門徒斎藤昌子さまの参加十回の表彰があったことも同慶のいたりでありました。  
最後に、今年も大谷本廟納骨堂へお参りさせていただきますました。

ご祖先様、亡き夫に手を合わせながら、わたしは一瞬ハッと致しました。不満や浅ましいこころで過ごしている今のわたしに気づかさざれ、思わず「ごめんなさい」と心の中で申したことでありました。

## 十月のこよみ

- 二日 出石組『連研』
- 四日 基幹運動第二部会
- 五日 同
- 七日 中央仏教学院講義
- 八日 西宗寺報恩講
- 九日 同

- 十日 同
- 十一日 中央仏教学院
- 十四日 中央仏教学院
- 十六日 谷垣逸雄氏宅法事
- 十七日 十六夜会定例法座
- 二十日 網子組住職寺族研修会
- 二十一日 中央仏教学院
- 二十二日 長専寺報恩講・善立寺報恩講
- 二十三日 同
- 二十六日 生田俊雄氏宅忌明
- 別修 (敬老) 報
- 恩講

- 二六日 石坪好延氏宅忌明・法事
- 二七日 みのりを聞く会定例法座
- 二八日 大分教区研修会
- 二九日 同
- 三〇日 第三連区門徒推進員連絡協議会
- 本覚寺報恩講
- 同日 同
- 立脇 晃氏宅法事

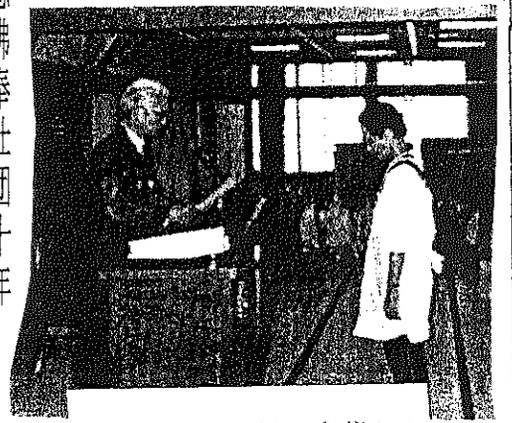
### 葬儀

九月六日 出石・内町  
勝林寺 カール



念佛奉仕団十年

齋藤 昌子



奉仕団十年表彰の齋藤さん

今年もまた、奉仕団に参加できて、よき開法のご縁をいただき、有意義な二日間をすごさせていただきました。

ことに、わたしたち門徒のこころのふるさとである阿弥陀堂・影堂での晨朝(あしたのあけ)の門主さまのおつとめの声が、厳かに響き渡るなか、身のひきしまる思いがして、今年もお参りできて本当によかったとしみじみ感じました。

こうして親鸞聖人ご真影のおそばで奉仕させていただき、そのうえ、ほかのお寺のご門徒の方々とのご縁もいただき、このようなことは念佛奉仕団でなければ味わえないしやわせと、歓喜身にあふれた二日間でした。

おもえば、健康であったら是非来年も...またと念じ念じながらの奉仕団参加も十年。今年はずれの表彰をしていただきました。

この十年の間には、いろいろなことがありました。毎年あの明るい声でつれて歩いてくださった坊主さまが亡くなりました。毎回一緒に歩いていただいていた方も足腰をいたためられ参加できなくなりました。わたし自身、バス酔いに苦しめられたことなど。



にもかかわらず、今年の奉仕団を終わった今、あらたな思いでこう思うのです。健康であって、是非来年も。

アイスマンのさげび

今から三年前、オーストリアとイタリアの国境のアルプス山脈の水河のなから、五千年以上むかしの「アイスマン」(氷漬け人間)の遺体が見つかった。その遺体の細胞からミトコンドリアとよばれる、母から子へ伝えられる遺伝子を取り出すことに成功した。

そしてそのミトコンドリアを手掛かりに、この人のミトコンドリアをうけ伝えている現代人を、ひろくヨーロッパ、アメリカ・アフリカに探してみた。結果この五千年前の「アイスマン」に同じミトコンドリアを受け継ぎもつてゐる人、すなわち直接の子孫がさしずめ十三人見つかったということだ。

この研究に当たった科学者が、つい身の回りの人を調べてみたぐらいの事だから、わずか13人真剣にもっと大掛かりにしらべていけば恐らく何千億ということになるはずである。

この事実を、もっと手近かなことから考えてみよう。

つまりわたしの命が生み出されるのに、いったい何人の祖先がいなければならなかったか。

二代前には4人。三代前は8人という具合に。まず二〇代前には百万人の祖先がいなければ今のわたしはなかった。わたしの二〇代前までの祖先の総和は二百十万人。

一代大体二五年とみると、二〇代前は250年昔である。250年のあいだにも二百万の祖先の命がなければ、今のわたしの命はありえないことになる。それがこの「アイスマン」は5000年である。

だからこの5000年の間に人類みんな、いつの世代かに、つながりをもち親戚の縁を結び、人類すべて一人として他人でない「人類オール親戚」の世界をつくっていることに改めて気づき、あらためて驚くことである。

オール親戚なんだよ。と教えて下さったのが、お釈迦様の「縁起のおしえ」でありました。

ひとりではあり得ないんだよ。ひとりの命ではないんだよ。無量無数の縁(関係性)のなかで生き得ているのちの尊厳性に目覚めよう。そう教えたのがお釈迦様の仏教でした。

別修 (敬老)



如来さまの「南無阿弥陀仏のお念佛」は、「文字の心も知らず、愚痴きわまりなき」わたしたちへのお呼びかけの声でありました。その呼び声のなかで、一年に一度でもいい、老若「共に同心に」あい集い、念仏に生きる身のしあわせを確認しようとして願って勤めるこの別修(敬老)報恩講です。

勝林寺仏教青年会  
勝林寺仏教婦人会

日時 十月十一・十二日 (日)

受付 4時30分 栗尾4時発  
送迎バス 和屋4時半発

日程 開会(5:00) おつとめ  
ご法話 おとき  
懇親演芸会



ヒマラヤの水河の中から出て来た「アイスマン」

人類みんな親戚なのに、我が国・我が民族・我が部族・わが家・わが血筋と、きょうだい親戚どうし、いがみ合い、戦いあい、殺しあっているヨーロッパ、アフリカの、わが子孫の現状に、いてもたってもおれないで、叫びてきたのではないのでしょうか。いえ、日本とて、わたしとて、例外ではありません。

会費

招待者(七〇歳以上) 無料  
仏社会員 一五〇〇円  
仏婦会員 一三〇〇円

参加申込

① 仏婦評議員が地区内の参加者をまとめ十九日までに寺にご報告ください。  
② 七〇歳以上の方には招待状をお届けください。  
☆「招待状」・「参加者報告用紙」などは別便にてお届けします。

出演してください

舞踊。民謡。カラオケ。隠し芸など  
ふるってご披露ください。

地区仏婦評議員がお願いに  
まいります。

男女老少は問いません。

団体グループの参加も歓迎。

新米を  
供えて嬉し

今朝の勤行

赤穂南組 前田 幸子

兵庫教区門徒推進員連絡協議会